J-SIP-B150

M10-19

秘境伝説「加羅宇多姫」を演じる村の祭りと文化観光

○和田晃平、池本（田中）有里、山本耕司　（四国大学）

１．はじめに

徳島県三好市西祖谷に伝わる「加羅宇多姫伝説」は、その信仰対象となった岩山、伝説にまつわる社や鏡など、背景となる歴史史料が存在する。この伝説の中核「古宮神社」は、旧町村（三好郡西祖谷山村）時代から指定された史跡でもあるが、この説話は地元での語り部による伝承が主であり、これまで体系的にまとめられた記録はない。

そこで、この祖谷の地に説話が発生し語り継がれた経緯や、信仰を集め、守り伝える地元の人々の姿に注目した。娯楽的に作られ伝承してきた文化を映像化することは、地元の歴史・文化への深い理解と、地域愛の醸成に役立つことはもとより、保存会の伝承活動や学校教材としての教育活動等にも利用できる。また、来訪者に地域文化を紹介することで、地域活性化の取組みにも資することが考えられる。

２．調査概要

徳島県三好市祖谷地方には、平家落人伝説をはじめとする説話伝承が数多く残されている。その中で、祖谷の吾橋地区に伝わる「加羅宇多姫伝説」の素地となる説話は、応安年間(1368～75)『太平記』巻 18「東宮還御事附一宮御息所事」、文化 10 年(1813) 『南路志』、近世末の『祖谷東西記深山草』等に記録が残されている。また、吾橋地区の古宮神社に祀られる古宮嶽は、「加羅宇多姫伝説」以前から、母子神信仰、農耕信仰の対象であったと考えられている。このような地域の歴史、文化は学術的な価値があり、そのような歴史や文化と強く結びついた物語を記録することは独創的であり、映像化することは意義があると認められる。

図１　古宮神社で演じる加羅宇多姫伝説創作劇

図２　祖谷襖からくり公演での加羅宇多姫伝説創作劇

一方、この伝説を映像化は、地元の誇りを醸成し、住民同志が結びつく意義がある。市の内外へ物語を伝える活動が地域の語り部から発展し、平成 25 年度からは「加羅宇多姫伝説保存会」が発足している。毎年、秋の祭礼日に併せて加羅宇多姫伝説創作劇が古宮神社で実施されている。今秋も古宮神社で奉納された創作劇は、祖谷地方に伝わるふすまからくりの舞台でも上演された。秘境祖谷には温泉や景色を楽しもうと全国から観光客が訪れる。そこには外国人も多く、温泉宿に泊まった観光客に、地元の伝統文化を見てもらおうと、農村舞台やにわか仕掛けの舞台で芸能が披露された。その一幕に、「加羅宇多姫伝説」の創作劇も上演され、多くの観光客が賞賛した。そこには地元民の観光客に対する厚いおもてなしの心が伝わるものであり、奥深い山の中に歓声が響き渡った。詳細は講演の際に述べる。

【謝辞】

本研究は，三好市教育委員会による伝統芸能等保村事業（映像記録保存事業）における調査・撮影をもとに実施しているもので、加羅宇多姫伝説保存会の皆さまにはインタビューや、撮影のために繰り返しての上演、感謝いたします。

【参考文献】

1) 澤村明夫：「歌姫神社の由緒」，1989.6.　2) 「太平記」，室町時代　3) 吉川英治：「私本太平記」1958.